

“評価”を根本的に考え直そう

学習には“評価”というものがつきものですが、この“評価”については、改めて考え直してみるべき問題がいろいろあると思います。まず、「何のために評価するか」ということから根本的に考え直してみる必要があると思うのです。

もちろん、教育の効果をより一層高めるためには、時々その効果のほどを調査しては反省してみる必要があります。けれども、今の教育界には、“子どもを育てる”ことを忘れた“評価のための評価”が余りにも横行し過ぎているのではないのでしょうか。

昨年、ひとしきり通信簿の評価の仕方が問題にされ、家庭から学校、ひいては文部省までがこの論議に加わって、けんけんごうごうたるものがありました。そこで、まず、この問題から考えてみたいと思います。

通信簿は必要なのか？

私は、元来“通信簿廃止論者”で、通信簿はある意味では有害無益、少なくとも不要なものだと考えています。家庭との通信は、こんな形式ばったものではなく、もっと頻繁に連絡し合うべきもので、懇談が最もよく、手紙のやりとりがこれに次ぎます。

ただ、今までのしきたりとして“通信簿廃止”がむずかしいと言うのなら、通信簿の存続を認めてもよろしい。ただし、通信簿の評価の仕方は“二段階評価”にとどめるべきであることを主張します。

それは“可”と“不可”との二段階です。評点は“プラス、マイナス”でも“一、二”でも“A、B”でも何でもよろしい。要は二段階であればよろしいのです。

“不可”は現在の学力では、今後の学習に支障を来たす恐れがある、と担任が認めた場合にのみこれを与え、他はすべて一様に“可”を与える、というものです。ただし、学力としては“不可”に相当する場合でも、当人としては相応の努力をしている場合には“可”を与えるこ

とします。

従って、“不可”をもらう子どもは、学業成績が極度に悪い上に、学習態度が悪い者であって、普通学級には一人もいないか、いてもせいぜい一人か二人くらいのはずです。

成績を家庭に知らせる無意味さ

学習成績を家庭に通知するのに、これ以上くわしく知らせることは無意味だ、と私は考えています。真っ先に述べましたように、そもそも成績を知らせる通信簿などというものは、ないのが一番よいのです。

一体、成績を家庭に知らせることによって教師は家庭に何を期待するのでしょうか。「あなたの子どもの今学期の成績は大そう良かった。その調子で勉強して、一そう良い成績をあげてくれ」……こればかりだったら悪いこともないでしょう。

しかし、成績の悪い場合はどうなりますか。「今学期悪かった科目は、家庭でよく勉強して、次の学期の始まるまでに学力を回復させて

おいて下さい」とでも言うのでしょうか。

事実、成績不振の子どもの通信簿には、たいてい、そのような意味のことが書かれているのが普通です。しかし、学校で、指導に熟練した先生が毎日熱心に指導していても成績の不振な子どもを、専門的知識がなくて指導法もほとんどわきまえていない家庭の両親が、どうして成績の良い子どもにしてやることができます。それはまず不可能と言わなければなりません。

子どもの成績を良くするための手立てを全く持たない家庭の母親たちに、「あなたの子どもの学力は、このクラスでは下の下です。もっと学力を上げると努力して下さい」と言うのは、ただでさえ心を痛めている母親の苦痛をさらに増すだけで、何の効果も期待することはできません。

“点取り虫”を養成するだけ

どういう科目のどの点がどのように悪い、と知らされても、母親にて

きることはただ「勉強しなさい」と叱咤激励することだけであって、真に成績を良くするための手段を講ずることができませんから、まことにあわれと言うべきです。子どもにしたところで、ただ「がんばれ、がんばれ」と鞭打たれるだけでは、そのあわれさは母親のそれに劣りません。

通信簿が家庭にまき起こす悲劇というものは、たいてい上のようなもので、このような通信簿は“百害あって一利もないもの”と言っても、決して過言ではないと思います。

とりわけ、小学校の低学年のうちから、細かく学習成績を評価して、それによって学業の向上をうながそうとすることは、いわゆる“点取り虫”を養成するだけであって感心できません。むしろ、学習成績などには無関心に、のびのびと好きなように学習させることの方が大切だと思います。

性格形成上にもマイナス

通信簿廃止を私が主張するのは、あのように重々しい形で成績を家庭に通知すれば、どうしても受け取る側も実際以上にこれを重大視するからです。成績が良ければ良いで有頂天になり、親も子も慢心しがちです。反対に、成績が悪いと悲観して自信を喪失しがちです。

慢心すれば、向上心が薄れて努力を怠り、そうなればたちまち成績も下降線をたどり始めます。そればかりではありません。慢心する者は、他人をあなどりますので、他人を不愉快にし、果ては社会から爪はじきされる憎まれ者になるに決まっています。

また、反対に、自信を失った者は、初めから向上心がなく、従って、成績が向上するわけがなく、いつも人から見下される、情けない人間になるよりほかはありません。

このように、通信簿というような形式ばった形で成績を家庭に通知することは、慢心型の人間を作るか、さもなければ、自信喪失型の人間を作るかで、いずれにしても良いことはないように思われます。